

# 絶滅危惧野球

～消え続ける野球少年たち～

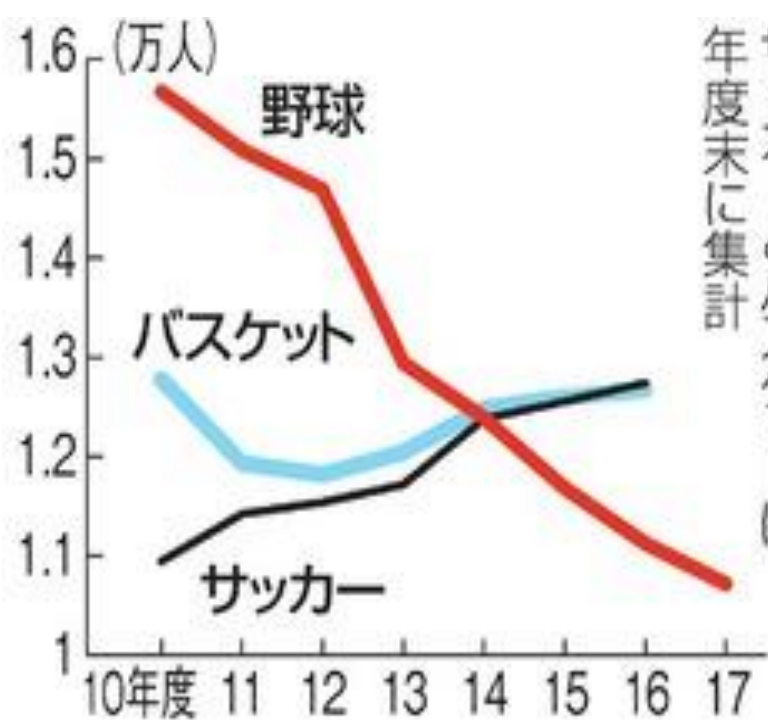
大阪経済大学 田島ゼミ

○紙谷 貴比呂 濱西 将成 八木 茉紘 河林 幸丸  
竹川 真晴 赤山 知幹 花咲 つぐみ





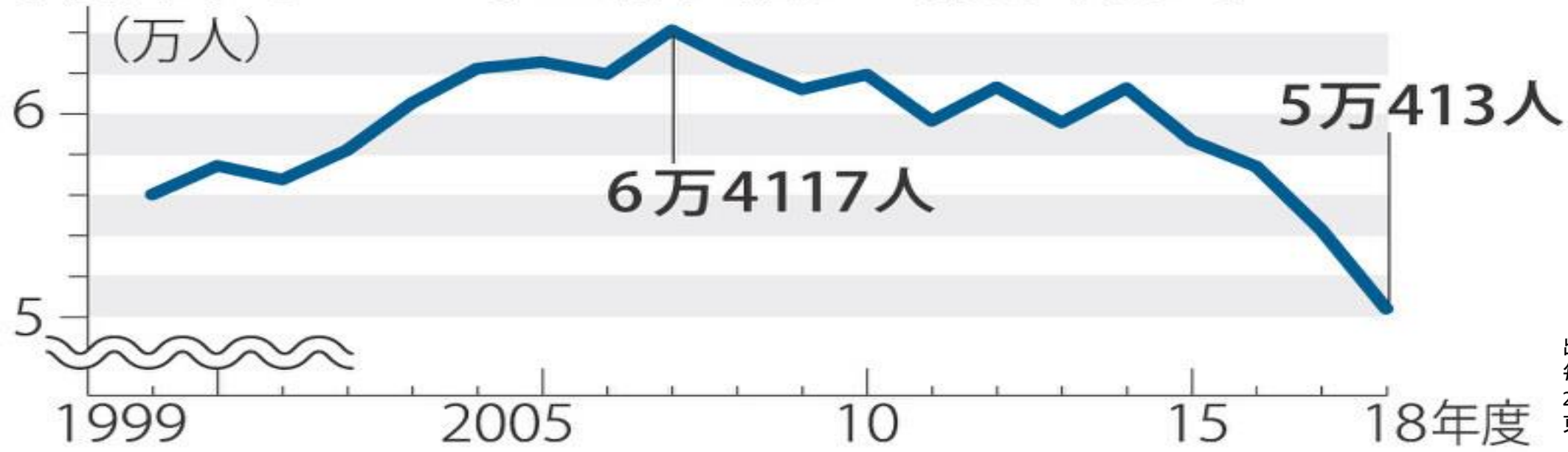
出典: 広尾晃 『野球崩壊 深刻化する「野球離れ」を食い止めろ!』 イースト・プレス 2016年



**県内小中高校生の3競技人口の推移**  
 県青少年野球協議会調べ。  
 サッカーとバスケットは  
 年度末に集計

出典:  
 朝日新聞DIGITAL  
 2018年1月29日

## 高校野球の1年生部員数の増減(硬式)



出典:  
 毎日新聞  
 2018年6月30日  
 東京朝刊



# 2018年 夏の全国高校野球大会でも話題に

夏の甲子園・主な投手の総投球数  
(90年以降・650球以上=本紙調べ)

948球	斎藤佑樹 (早実)
820球	川口知哉 (平安)
814球	今井重太郎 (三重)
783球	島袋洋奨 (興南)
773球	大野倫 (沖縄水産)
767球	松坂大輔 (横浜)
766球	吉永健太郎 (日大三)
742球	福岡真一郎 (樟南)
713球	古岡基紀 (京都成章)
708球	正田樹 (桐生第一)
696球	辻内崇伸 (大阪桐蔭)
687球	高橋光成 (前橋育英)
665球	一二三慎太 (東海大相模)
658球	田中将大 (駒大苫小牧)
650球	飯塚悟史 (日本文理)



# 野球界の抱える課題

1. ジュニア(少年、中学、高校)世代の野球人口が**激減**している
2. 高校野球、投球制限の問題など多くの**制度疲労**がみられる

国民的行事とも言える「高校野球」は、良い意味でも悪い意味でも野球界に大きな影響を持つ。私たちは、高校野球で起きている課題を解決することが、日本の野球界、スポーツ界に良い影響を与えると考えた。

# 野球界の抱える課題を解決する3つの企画

1. ジュニア(少年、中学、高校)世代の野球人口が**激減**している  
➡ 幼児に向けた**スタートアップ**種目として、  
ティーボールの普及を進める！
2. 高校野球、**投球制限の問題**など**多くの制度疲労**がみられる  
投球制限の問題解決を出発点に、  
➡ 高校野球を **1) より安全に 2) よりレベルアップ**が期待できる  
仕組みを提案する
3. 1.2. の取り組みを実現するため**高校野球の収益化**を図る

1. 幼児に向けたスタートアップ種目として、  
テニールの普及を進める！

# 1-1. 現在の学習指導要領での位置づけ(ベースボール型)

小学校、中学校の体育授業で行われるボールゲーム

ゴール型	ネット型	ベースボール型
ポートボール	ソフトバレーボール	ティーボール
セストボール	バレーボール	ソフトボール
バスケットボール	テニス	キックベースボール
ラインサッカー	卓球	ハンドベースボール
ミニサッカー	バドミントン	ラケットボール
ハンドボール		
フラッグフットボール		
タグラグビー		

- 学習指導要領では低中学年は「ゲーム」、高学年は「ボール運動」、中学校は「球技」という名称で構成される
- このゲーム、ボール運動、球技領域はそれぞれ「ネット型」、「ゴール型」、「ベースボール型」の3つの型に分かれる
- 「ベースボール型」の中にティーボールがあり、中学年・高学年の典型教材と位置づけられる

## 1-2. 学習指導要領の変遷（ベースボール型が消えた！）

### 野球が教育から消えた!!

昭和52年

小学校・中学校・高校の体育から  
野球型ボールゲーム、ソフトボールが消えた。



### 学習指導要領から野球が消えた その理由！！

【時間の問題】 投手のストライクが入らず、体育の授業時間内でゲームが成立しない

【プレイの機会の問題】 打順が回らない、決まった守備者だけがプレイする傾向強い  
(運動量の確保も難しい)

【危険性の問題】 バット、ボールなどの用具の危険性



# 1-3. (仮説) 体育でベースボール型が消えた10年が野球人口減少のきっかけになったのでは！？

昭和52年から10年間『ベースボール型』が日本中の小中学校で行われない！



好きでも嫌いでも義務教育で一度は触れる機会があったが失われる・・・



体育の先生を目指す大学生も将来教える機会がないなら、と大学の授業を選択しなくなる。



復活しても、教えることのできる先生がいない

悪循環

そこで！

## 1-4. 日本式ティーボールの開発 (NPO法人日本ティーボール協会)

**課題【時間の問題】** 投手のストライクが入らず、体育の授業でゲームが成立しない

→ (解決！) ストライクが入らないなら、投手のいないベースボール型種目を開発  
20～30分で4イニングが可能に！

**課題【プレイの機会の問題】** 打順が回らない、決まった守備者だけがプレイする傾向  
(運動量の確保も難しい)

→ (解決！) ルールの変更 3アウト交代× 全員攻撃制度○ を採用

**課題【危険性の問題】** バット、ボールなどの用具の危険性

→ (解決！) ウレタン製のボール、バットの開発／ダブルベースの採用  
ティー台をホームベース型ではなく、円形にし、ホームベースから50cm後ろにおく  
＝接触プレイを避ける



順位	未就学児 (n=145)		順位	小学1年生 (n=99)		順位	小学3年生 (n=108)		順位	小学5年生 (n=77) (%)	
1	自転車あそび	46.2	1	おにごっこ	54.5	1	おにごっこ/ サッカー	51.9	1	サッカー	61.0
2	おにごっこ	44.8	2	サッカー	46.5	3	ドッジボール	49.1	2	ドッジボール	58.4
3	かくれんぼ/ サッカー	35.9	3	水泳	41.4	4	水泳	43.5	3	おにごっこ	41.6
4	ぶらんこ	34.5	4	自転車あそび	40.4	5	自転車あそび	29.6	4	水泳	29.9
			5	ドッジボール	25.3				5	バスケット ボール/ 野球	20.8

## 過去1年間によく行った運動・スポーツ(女子)

順位	未就学児 (n=130)		順位	小学1年生 (n=78)		順位	小学3年生 (n=108)		順位	小学5年生 <sup>(%)</sup> (n=68)	
1	ぶらんこ	56.2	1	ぶらんこ	48.7	1	おにごっこ	50.9	1	おにごっこ	54.4
2	おにごっこ	51.5	2	水泳	43.6	2	自転車あそび	43.5	2	水泳	38.2
3	自転車あそび	46.2	3	おにごっこ	41.0	3	ドッジボール	36.1	3	なわとび	36.8
4	かけっこ/鉄棒	30.8		4		なわとび	35.2	4	ドッジボール	35.3	
			5	鉄棒	37.2	5	水泳,ぶらんこ	32.4	5	ぶらんこ	29.4

## 1-4. 幼稚園児への普及の重要性！



さらなる！  
課題が・・・

小学校の体育にベースボール型は戻ったが・・・  
小学生の人気スポーツに「野球」「ソフトボール」は入っていない



未就学児や小学1年生で 種目として選ばれているのは  
「サッカー」のみ



小学3年生～の授業では遅い！ 幼稚園児に向けた対策が必要！？



戦略！

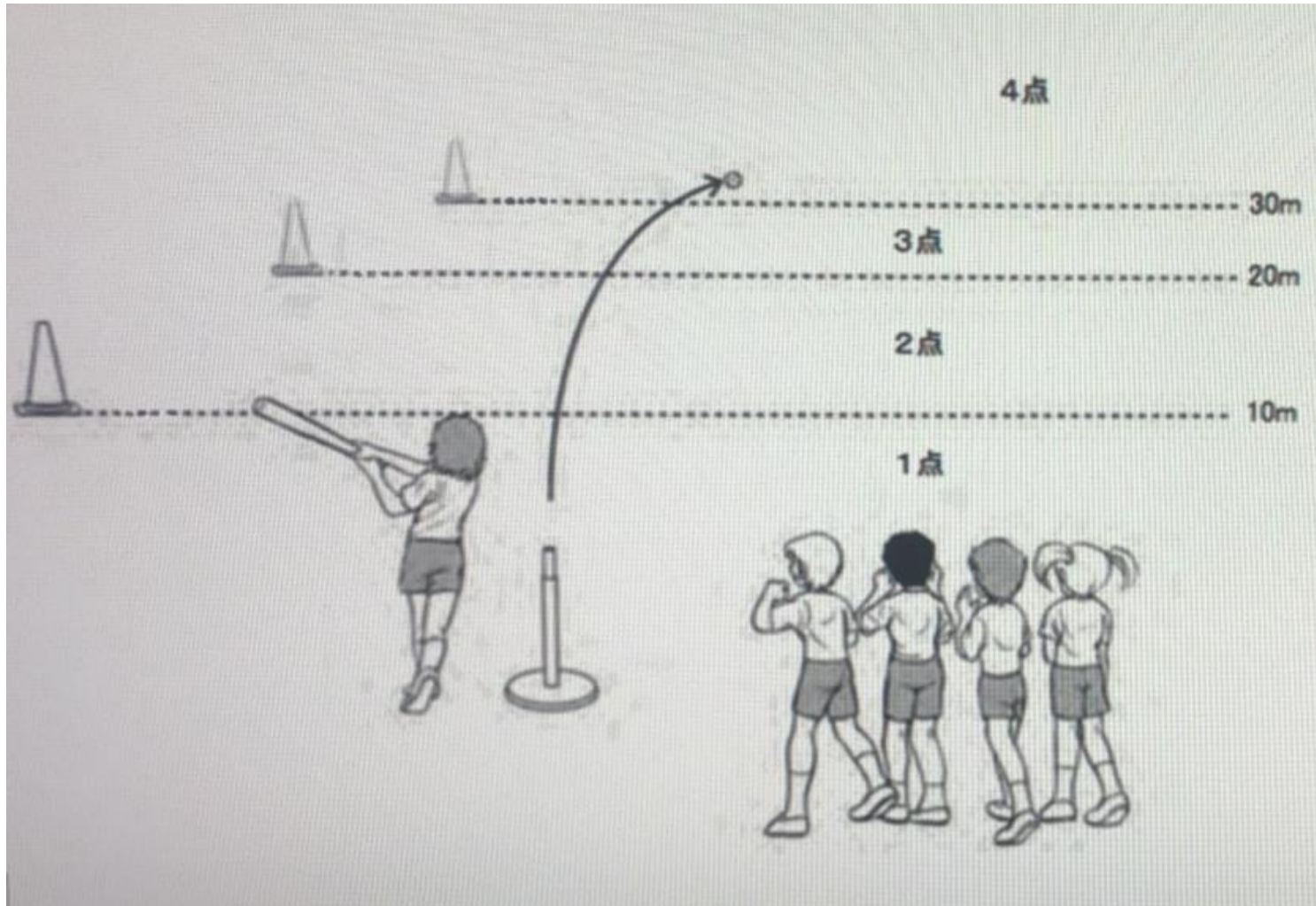
作戦1. 幼児向けのT台、ボール、バットの開発！

作戦2. 幼稚園の「体育」授業に導入 ← 幼稚園の体育授業を支援する企業と連携

作戦3. 幼児が夢中になる プログラム開発！



# 1-5. 幼稚園児が夢中になるプログラム「年少」 《 とびっこ 》



## 【ねらい】

野球の醍醐味である『打つ』楽しみ、そして野球の基本である打ったら走る、投げることを学ぶ

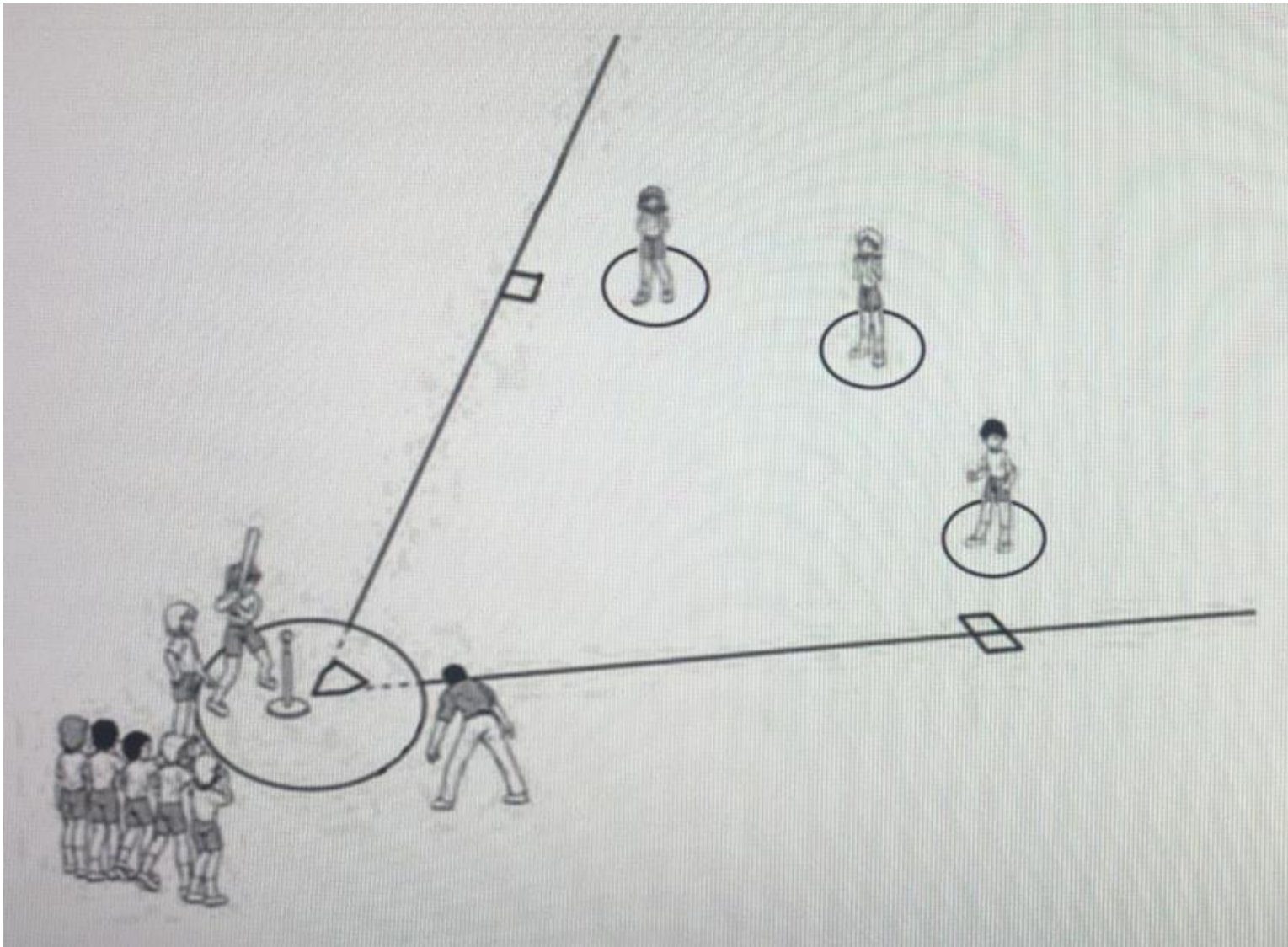
## 【ルール】

- ・1点、2点、3点と遠くに飛ぶほど点数があがるというもの
- ・打者はティー台からボールを打ち、ボールが止まったゾーンまで自分でボールを走って取りに行き、返球ゾーンまでボールを投げればその点数が入る
- ・一人一打席を3回まわして総得点を競う

## 【用具】

ティー台、ボール、縄

## 1-5. 幼稚園児が夢中になるプログラム「年中」《トンネルゲーム》



### 【ねらい】

打つ、捕ることに焦点をあて、より「野球」らしいものを学ぶ

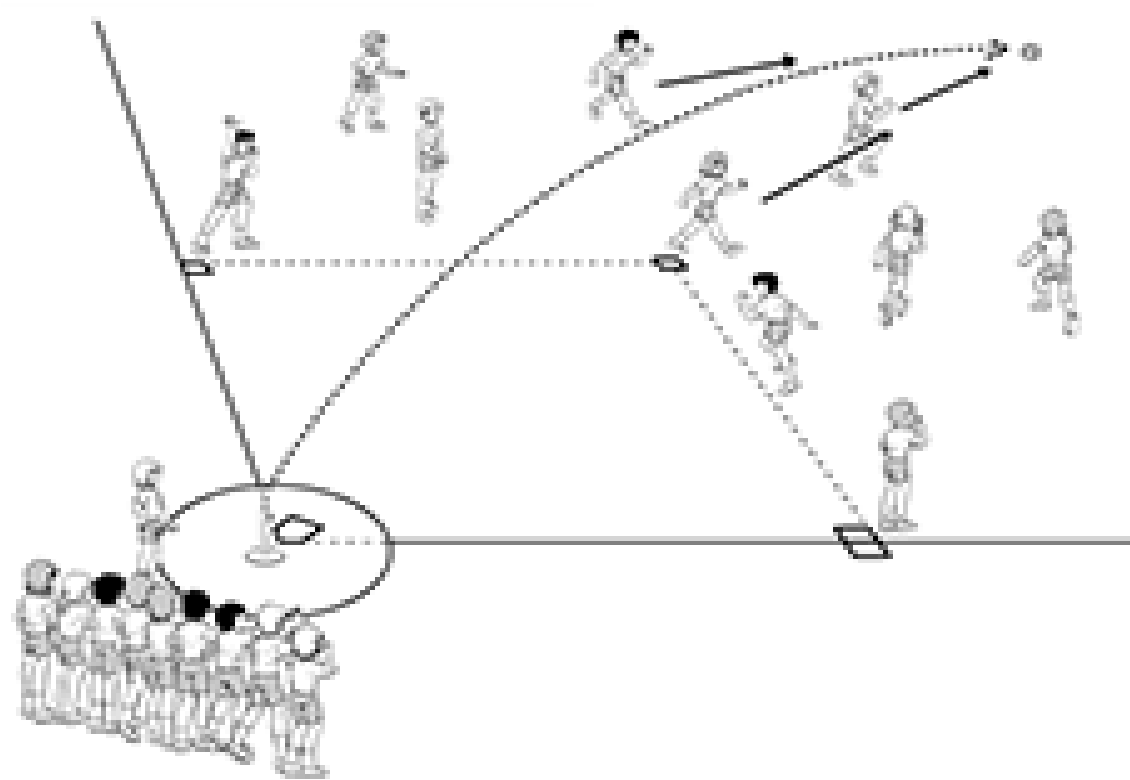
### 【ルール】

- ・2チームに分かれる。
- ・攻撃は、守備の間を抜ければ1点。  
守備は、フラフープの中で行い、キャッチもしくは体の1部に当たればアウトとなる。(フラフープから足を出してはいけない)
- ・打者1巡で攻守交代。

### 【用具】

バット、ボール、ティー、フラフープ

# 1-5. 幼稚園児が夢中になるプログラム「年長」《どか点ゲーム》



出典：日本ティーボール協会HP

## 【ねらい】

本格的な野球、ゲーム性を学ぶ

## 【ルール】

- ・打者がボールを打つ
- ・打球を取った守備者は本塁者に送球し、本塁守が本塁プレートを踏むまでに打者走者が到達したるいベースの数を得点とする。
- ・守備者が打球をノーバウンドで捕ると、打者はアウトで得点は0点である。
- ・打者一巡で交代する。

## 【用具】

ボール、バット、ティー台、本塁プレート、塁ベース3枚

## 2. 高校野球の制度改革！

- 高校野球をより安全に！
- 高校野球をよりレベルアップ！
- する仕組みづくり-

切り口は  
球数制限！

## 2-1. 投手の球数制限を導入する！

夏の甲子園で700球以上投げた投手のその後

投球数	選手名	年 出場校	プロ入り後の成績(通算)
948球	斎藤 佑樹	2006年 早実	15勝24敗 防御率4.33
820球	川口 知哉	1997年 平安	0勝1敗 防御率
783球	島袋 洋奨	2010年 興南	0勝0敗 防御率
773球	大野 倫	1991年 沖縄水産	投手を断念 野手としてプロ入り
772球	安楽 智大	2013年 済美	5勝12敗
767球	松坂 大輔	1998年 横浜	114勝 (日米通算170勝)
766球	吉永 健太郎	2011年 日大三	プロ入りせず
742球	福岡 真一郎	1994年 樟南	プロ入りせず
713球	古岡 基紀	1998年 京都成章	プロ入りせず



## 2-1. 投手の球数制限を導入する！

### 賛成派



桑田 真澄さん



橋下 徹さん

VS

### 反対派



里崎 智也さん



齋藤佑樹 選手

この問題は  
答えの出ない  
問題！

- ・金足農業の吉田選手を美談で終わらす間は日本のスポーツ界に未来はない。
- ・道具も戦術も進化しているのに、指導法だけが進化していない。
- ・プロ入り後、甲子園の優勝投手は投手として活躍できていない・・・

- ・タイブレークにより投手への負担が軽減
- ・限界を超えることで、本当に強い選手が生育つ
- ・高校野球の感動が損なわれる
- ・投げた本人は後悔がない

私たちは、選手を守る！という立場をとりたい！！

だから・・・

高校野球公式戦での投球制限の導入を提案します

## 2-1. 投手の球数制限を導入する！

### 現状;夏の甲子園大会

- ・大会開催期間16日間で休養日は1日
- ・優勝するには6試合を戦う
  - 予選からの疲労の蓄積を考えたとき、選手の負担は大きい

どうする！？

### 投球制限の導入事例

	投球数上限	登板間隔
WBC	1次リーグ 65球	50球以上 中4日
	2次リーグ 80球	30-49球 中1日
	準決・決勝 95球	

	投球数上限	登板間隔
U18アジア大会	上限 105球	105球 4日
		50-104球 翌日×
		2日連続 計50球 翌日×

	投球数上限	登板間隔(1軍)	登板間隔(2軍)
アメリカ高校野球	1軍 110球	86-110球 3日	61-85球 3日
	2軍 85球	61-85球 2日	36-60球 2日
		36-60球 1日	26-35球 1日

## 2-1. 投手の球数制限を導入する！

予想される意見・・・

連投が許されないと、選手層の薄い「公立高校」は  
甲子園で活躍できない！

実際に・・・

「導入されれば、今大会のウチのような躍進は極めて難しい」  
(金足農業高校 コーチ)

ならば、**投手1人でも十分な登板間隔**が確保できる  
**リーグ戦と併用した試合形式**に変革しよう！！

## 2-2. 高校野球の試合方式を改革する

- 春大会を廃止、夏の大会のみを開催
- 年間(9月～11月、3月～7月の8か月)を通してリーグ戦を実施
- 全国9地区に分けた各地区から計16チームが8月に甲子園で行われる決勝リーグに出場

全国9地区→九州、中国・四国、近畿、大阪、中部、  
北信越、関東、東京、東北・北海道

沖学園(福岡)VS東海大星翔(熊本)や花巻東(岩手)VS仙台育英(宮城)  
などリーグ戦から**レベルの高い試合**が観戦できる!!



## 2-2. 高校野球の試合方式を改革する

### 大阪大会でシミュレーションすると・・・

- ・170校を17チームずつA-リーグ(10ランク)に分ける  
初年度は2017年度大会のベスト16+1でリーグAを選出  
→履正社高校、上之宮太子高校、大阪桐蔭高校 etc ...
- ・17チーム総当たり2回戦方式で勝ち点上位2チームが決勝リーグへ
- ・試合は毎週末1試合ずつ  
→8か月×4週=32試合

会場は  
ホーム&アウェイ方式

**週に1試合なので投球制限を設けても平等に勝ち上がれる！！**

## 2-3. 高校野球制度改革の私たちのねらい

### 高校野球の制度改革！

- 高校野球を①より安全に！高校野球を②よりレベルアップ！  
する仕組みづくり-

#### ①より安全に

→ 105球を投げたら、4日休みの投球制限ルールを採用する！

#### ②よりレベルアップ

→ 現在；秋、春、夏の地方大会ですべてベスト8に残ったチーム  
の年間公式試合数の約2倍の年間32試合の公式試合数を確保

→ しかも！レベルの同じチームとの年間32試合！

③本提案は、①と② を両立可能なシステム

## 2-4. 決勝リーグ in 甲子園

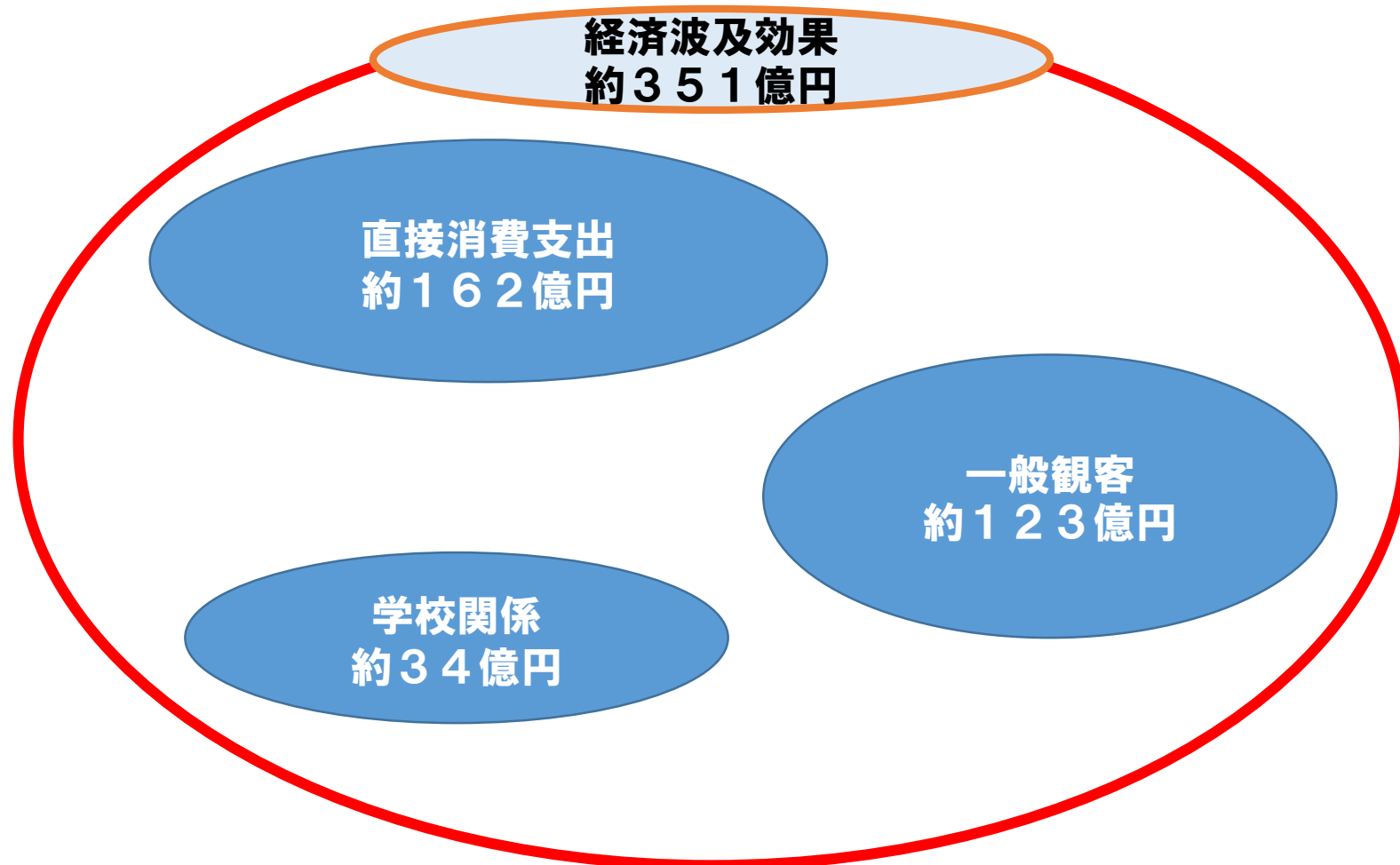
- 各地区のリーグAの1位が出場  
得失点で各リーグの2位のチームから7チーム選出  
→ 計**16チーム**でトーナメントを実施
- 8/5～8/26の水・土曜で5試合行い、優勝を決める

**十分に試合間を開けれるため、投手の負担を軽減できる!!**

3. 高校野球の収益化を図る
  - 制度改革を実現するために！

## 3-1. 夏の甲子園の経済波及効果

【2017年夏の甲子園の経済波及効果】



出典：サンケイBiz「夏の甲子園」の経済効果 放送権料受け取れば…それでも動かない高野連

## 3-2. 夏の甲子園の収支決算

毎年12月、日本高校野球連盟（高野連）と朝日新聞社は大会の収支決算を公表しており、例として2016年大会をあげると

【2016年大会】

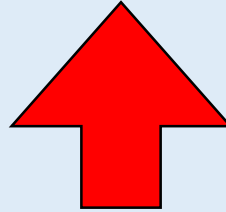
総入場者数	83万7000人
有料入場者数	49万2542人
収入	4億5170万8767円

ここから出場校への経費補助を含む大会開催費用や地方大会費、本部運営費など支出が計上され、2016年は差し引き  
**9536万2222円の余剰金**があった。



余剰金は軟式野球への補助や、学生野球関連への助成、選抜チームの海外遠征などに充てられる。

NHK・テレビ朝日・サンテレビなどの放送局



高野連

一切の放送権を受け取っていない

理由：人気向上と普及への対価

NHKは開局3年目の1927年からラジオによる全国中継を始めた。その際、人気向上と普及への対価とした取り決めが、今も根強く生きている。

関係者によれば、仮に放送権料を設定すれば、10億円はくだらないという。

出典：サンケイBiz「夏の甲子園」の経済効果 放送権料受け取れば…それでも動かない高野連



### 3-3. 夏の甲子園の収益化

#### 〈今考えられている収益化の方法〉

- 全席有料席
- 放送権料の設定
- ユニフォームにスポンサーをつける
- 月額制のWeb放送コンテンツ

# 地区予選リーグ戦方式

## ☆大阪大会でのシミュレーションした場合

- ・170校を17チームずつA-リーグ(10ランク)に分ける

初年度は2017年度大会のベスト16+1でリーグAを選出

→履正社高校、上之宮太子高校、大阪桐蔭高校 etc ...

- ・17チーム総当たり2回戦方式で勝ち点上位2チームが決勝リーグへ

- ・試合は毎週末1試合ずつ

→8か月 × 4週=32試合

年間を通して各地区で行われるAリーグの試合をweb放送する！

私たちの提案は

**月額制のWeb放送コンテンツ**です！

## Web放送コンテンツのメリット

時間があるときに好きな試合を観ることができる。**滞在費**がかからなくなる。

**遠方への交通費**や

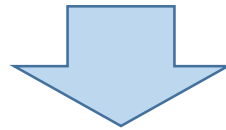
甲子園では見ることのできない県内の強豪同士の試合が観れる。

**遠い場所**にいても好きな地方の観戦ができる。

こういった**野球マニア**の方々を**ターゲット**に収益を図ることができます。

## ■目標最低想定試算

- ・ 9地区のカテゴリーA のゲームのうち、毎週2試合を中継
- ・ 2試合×32周で年間64試合を中継
- ・ 月額料金月々/1000円
- ・ 想定視聴者 視聴率を1%で想定しても100万人



$$100\text{万人} \times 1000\text{円} / \text{月} = 10\text{億} \times 8\text{ヶ月}(32\text{週}) = \text{年間}80\text{億}!!$$

1%でこの計算なので2%になると...とても膨大な額になる。

## 【3-4. 収益化した際にできること】

### 〈審判委員の負担軽減〉

炎天下の激務である審判ですら  
**交通費、宿泊費に加え、  
日当(3000円)**を受けるだけ

**有給休暇を取って甲子園に  
駆けつける委員も少なくなく  
人員確保に苦勞する現実**



- 日当3000円というのを撤廃し、  
固定給+インセンティブ  
を設ける
- 宿泊施設での優遇制度など、  
法定外福利厚生の実施と、  
立派な職の1つとして加える  
ことにより、人員減少を防ぐ

### 〈高校の負担軽減〉

選手、監督、責任教師あわせて  
20人に**交通費と1日3000円  
の滞在費が支出されるのみで  
足りない分は出場校の自己負担**



- カテゴリーAや甲子園出場校の  
宿泊費・交通費・その他滞在費  
の全額補助
- 各高校で試合が行われるので、  
仮設グラウンドスタンドの設置  
補助やグラウンドの人工芝化の  
一部補助といった施設向上

### 〈教育施設の教育補助〉

小学校の体育にベースボール型は  
戻ったが、**小学生の人気スポーツ  
に野球・ソフトボールは入ってお  
らず、小学3年生～の授業では遅  
く、幼稚園児に向けた対策が必要**



- Tボールをはじめとするベース  
ボール型のゲームに必要な用具  
一式を全国の幼稚園や教育施設  
に無償で補助
- Tボールを含むベースボール型  
のゲームを指導するための指導  
者派遣費